性格審査試験規定

2024 年版

前文

ドイツシェパード犬協会（SV）は、125 年以上にわたり犬種繁殖を行ってきたが、これまで無警戒性、社会行動、騒音感受性、動作安定性、遊び・獲物本能、基本的性格に関する記録は存在しなかった。

本協会は、繁殖適格審査および繁殖に供するジャーマン・シェパードに対して、まず性格審査（Wesensbeurteilung）を導入・実施する。評価は性格審査員によって記録され、犬はその評価を添付して犬籍簿に登録される。

本規定において、審査規定に基づき以下の二種の審査員を区別する。

1. 性格審査員（B-W）

2. 繁殖資質審査員（B-ZAP）

1 人の人物が両資格を兼務することも可能である。

なお、IGP 試験は性格審査の代替にはならない。

本試験規定内における一般的略語

PO = 試験規定
HL = ヘルパー
FL = 印跡者
HF = ハンドラー
HZ = 命令
GST = 基本姿勢
B-W = 性格審査員
B-ZAP = 繁殖資質審査員

Verein für Deutsche Schäferhunde Japan (SVJ) e.V.
Tsutsumishitacho 30, 615-0835 Kyoto, Japan　TEL +81 75-313-1789　FAX +81 75-313-1685　svj@wusv.jp

OG = 支部
LG = 地区団体
SV-HG = SV 本部
SV = ドイツシェパード犬協会 e.V.

A.) 性格審査

I. 一般

1) 日程準備

地区団体（LG）は、前年 11 月に性格審査の実施を支部（OG）に委託する。

支部は、審査員長の氏名およびメールアドレスを地区団体に報告する。

日程は LG で調整し、SV 本部と協議して確定する。

審査員は LG が調整し、SV 本部の承認を受ける。

全国の日程は SV 新聞および SV ホームページに、審査員名と審査員長名を付して掲載する。

性格審査は常に公開形式で行う。

2) 性格審査員

各 B-W は自身のアシスタントを伴い、該当審査を積極的に担当する。

SV 本部は必要に応じて補助の B-W を派遣することができる。

3) 実施手順

犬の性格を客観的かつ一貫して評価するためには、全体の進行を標準化し、定められた順序で各ステーションを実施する必要がある。

Verein für Deutsche Schäferhunde Japan (SVJ) e.V.
Tsutsumishitacho 30, 615-0835 Kyoto, Japan TEL +81 75-313-1789 FAX +81 75-313-1685 svj@wusv.jp

そのため、実施の順序および使用する器具の仕様は、すべての性格審査において以下のとおり定められている。

性格審査の構成

1. 無警戒性の確認
2. 社会行動
3. 騒音感受性
4. 動作安定性
5. 遊び・獲物本能
6. 基本的性格

その後、性格審査全体を通して示された行動について、直ちに公開で講評が行われる。

4) 参加条件

SV の繁殖簿または付属簿に登録されているジャーマン・シェパード、または SV または認可団体が発行する有効な繁殖簿または付属簿に登録され、チップ番号で識別可能な犬に限る。

犬は審査当日時点で生後 9 か月以上 13 か月未満でなければならない。

所有者またはハンドラーが SV 会員である必要はない。

1 人のハンドラーは 1 回の性格審査で最大 2 頭まで出場できる。

5) 最少参加頭数

最低参加頭数は異なるハンドラーによる犬 4 頭。1 日あたりの最大頭数は審査員 1 名につき 16 頭。

6) 試験日および申込

Verein für Deutsche Schäferhunde Japan (SVJ) e.V.
Tsutsumishitacho 30, 615-0835 Kyoto, Japan　TEL +81 75-313-1789　FAX +81 75-313-1685　svj@wusv.jp

試験日は原則として週末および法定祝日とする。金曜日は土曜日と併せて申請することができる。

ただし、金曜日は、土曜日に予定された犬の頭数が実施可能数を超えている場合に限り承認される。

平日にあたる祝日の前日は承認されない。

各連邦州の祝日規定を順守すること。

申込締切は、開催日前の火曜日 24 時とする。開催日が週末以外の場合は、申込締切をそれに応じて前倒しする。

実施支部（オルツグルッペ＝OG）は、申込締切直後（翌日）に申込書を直ちに SV の繁殖簿局（Zuchtbuchamt）へ送付しなければならない。

主催者は、申込のあった犬の頭数を審査員に通知しなければならない。

参加者は、SV の繁殖簿局によって SV-DOxS に掲載される。

II. 装備

実施支部は以下を用意する：

1. 無警戒性の確認

- チップリーダー・体高測定器（Körmaß）
- 測定板（Messplatte）
- 性格審査員（B-W）の書類置き用テーブル

2. 社会行動

- ひも付きボール、持来用具（輪付き）、ビーズルスト（かみつき用布製おもちゃ）など（ハンドラーが持参すること）

3. 騒音感受性

Verein für Deutsche Schäferhunde Japan (SVJ) e.V.
Tsutsumishitacho 30, 615-0835 Kyoto, Japan　TEL +81 75-313-1789　FAX +81 75-313-1685　svj@wusv.jp

- チェーンソー（刃なし）
- チェーン（丈夫な鉄製チェーン、約 150cm）
- 金属板（約 100×100cm）・空砲用ピストル（6mm）

4. 動作安定性

- ぐらつく台（滑らかな床面の工業用パレット〔120×100cm〕の中央下部に直径 10cm の丸太を固定したもの）
- 市販のビアテーブル 6 台
- 昇降補助具（ビアテーブルを固定し、滑り止めマットを敷いた昇り台として設置）

5. 遊び・獲物本能

- 犬がよく知っているおもちゃ（ひも付きボール、持来用具、ビーズルストなど）
- 穴あきプラスチック製の果物箱など
- 滑らかな床（約 30 ㎡のタイル床）の部屋
- 金属製の餌皿

6. 基本的性格

- 犬を係留できる場所（ポール、柵、または木。必ず訓練場の中ではないこと）
- 1.5m のリード（できればカラビナ付きの細いワイヤーケーブルが望ましい）

III. 性格審査

1. 無警戒性の確認

課題 1 – ID 確認

ハンドラー（HF）はリードを付けた犬とともにチップ確認に臨む。性格審査員（B-W）はチップリーダーを用いて犬の個体識別を行う。

この際、B-W は犬の識別中の行動を観察し、記録する。

Verein für Deutsche Schäferhunde Japan (SVJ) e.V.
Tsutsumishitacho 30, 615-0835 Kyoto, Japan　TEL +81 75-313-1789　FAX +81 75-313-1685　svj@wusv.jp

課題 2 – 歯の状態確認

ハンドラーは B-W またはその補助者に犬の歯を見せる。歯の確認作業を B-W またはその補助者に委ねることもできる。
この際、B-W は犬の歯の確認中の行動を観察し、記録する。歯の状態は評価用紙には記載せず、その結果も記録しない。

課題 3 – プラットフォームでの測定

ハンドラーは犬をプラットフォームに上げる。犬は自由で自然な姿勢で立たなければならない。ハンドラーが犬を保持することは許される。
B-W またはその補助者が体高（肩までの高さ）と胸の深さを測定する。数値は記録しない。

オス犬の場合、この時に睾丸の確認も行う。
ここでは、B-W が測定中およびオス犬に義務づけられている睾丸確認中の犬の行動を観察し、記録する。

---

2. 社会行動

課題 4 – 犬とハンドラーの関係

ハンドラー（HF）は約 15 メートル離れた位置に 1 人で立つアシスタントの方へ向かう。HF は指示に従い犬のリードを外し、犬とともに自然に動く。犬を呼び寄せるための音声命令は許可される。

この際、B-W は犬と HF との結びつき（関係性）を観察し、記録する。

課題 5 – 人の集団内での行動

課題 4 の後、犬は HF に呼び戻されリードを付けられる。HF はリードを付けた犬をアシスタントに預け、自身は最低 8 名以上で構成される集団の背後へ移動する。指示により、HF は犬を呼び寄せる。アシスタントは犬のリードを外し、犬を解放する。

Verein für Deutsche Schäferhunde Japan (SVJ) e.V.
Tsutsumishitacho 30, 615-0835 Kyoto, Japan　TEL +81 75-313-1789　FAX +81 75-313-1685　svj@wusv.jp

犬は喜んで、かつ直接的な経路で集団を通り抜け、HF の元へ行くことが望ましい。その後、HF は自由に従う犬とともに、動いている集団内を自然に通り抜ける。

この際、B-W は犬の行動を観察し、記録する。

課題 6 – 見知らぬ犬との遭遇

この課題のため、次に出場するチームが待機する。

HF はリードを付け左側に付けた犬を連れ、見知らぬ犬と約 3 メートルの距離を保って 2 回すれ違う。見知らぬ犬もリードを付けて導かれる。

この際、B-W は他犬との遭遇時の犬の行動を観察し、記録する。

---

3. 騒音感受性

課題 7 – 騒音発生源「チェーンソー（刃なし）」

ハンドラー（HF）は指定された位置に移動し、リードを付けた犬とともにその場にとどまる。アシスタントは刃の付いていないチェーンソーのエンジンを異なる回転数で作動させながら、犬の周囲を約 4 メートルの距離を保って中立的に一周する。その後、エンジンを停止し、必要に応じて地面に置く。続いて HF は犬とともに騒音発生源へ近づく。

この際、B-W（性格審査員）は犬の騒音発生源に対する行動を観察し、記録する。

課題 8 – 騒音発生源「チェーン」

HF は金属製の床面から約 5 メートル離れた指定位置に移動し、犬を緩んだリードで立たせたまま、その場にとどまる。犬の向きは B-W の方を向くようにする。アシスタントは事前にチェーンを配置し、指示によりチェーンを金属板の上に

Verein für Deutsche Schäferhunde Japan (SVJ) e.V.
Tsutsumishitacho 30, 615-0835 Kyoto, Japan　TEL +81 75-313-1789　FAX +81 75-313-1685　svj@wusv.jp

落とす。チェーンが落下したら、HF は犬とともに騒音発生源に直接向かって進む。

この際、接近時に HF が犬へ言葉で補助することは許可される。B-W は犬の「チェーン」という騒音発生源に対する行動を観察し、記録する。

課題 9 – 銃声への反応

HF はリードを付けた犬とともに指定された位置に移動し、その場にとどまる。犬はリードを緩めた状態で HF のそばに立っていなければならない。

アシスタントは 6mm の空砲ピストルで、5 秒間隔で 2 発を発砲する。

B-W は犬の「銃声」という騒音発生源に対する行動を観察し、記録する。

---

4. 動作安定性

課題 10 – ぐらつく台

ハンドラー（HF）はリードを付けた犬とともに、あらかじめ用意されたぐらつく台に上がる。この台は、滑らかな床面の工業用パレットで構成されている。犬はリードを緩めた状態で自由にパレット上に立つ。

アシスタントは足でパレットを動かして揺らす。

この際、B-W（性格審査員）は犬の動作安定性と運動機能を観察し、記録する。

課題 11 – 動機付け対象を使ったぐらつく台

課題 10 の続きとして、HF は犬に対し、あらかじめアシスタントから受け取っておいた動機付け用具（モチベーションアイテム）を与える。

アシスタントは課題 10 と同様にパレットを揺らす。

Verein für Deutsche Schäferhunde Japan (SVJ) e.V.
Tsutsumishitacho 30, 615-0835 Kyoto, Japan　TEL +81 75-313-1789　FAX +81 75-313-1685　svj@wusv.jp

B-W は、負荷のかかった状況下で犬がどの程度熱心に、またどのような運動機能で動機付け用具に取り組むかを観察し、記録する。

課題 12 – 昇降／高所感受性

HF はリードを付けた犬とともに昇降台へ進む。HF は犬を緩んだリードで導き、昇降台から並べられたテーブルの上に上がらせる（全長：約 11m、L 字型に 5 台配置、テーブル幅：約 70cm、最後のテーブル手前に 10cm の隙間あり。昇降台部分は含まない）。最後まで進んだら犬は向きを変え、来た道を戻る。

犬は飛び降りても抱き降ろしてもよい。課題中は音声による補助のみ許可される。

B-W は犬の運動機能と高所に対する無感受性（恐怖の有無）を観察し、記録する。

---

5. 遊び・獲物本能

課題 13 – ハンドラーとの遊び

ハンドラー（HF）はリードを付けた犬とともに、アシスタントのいる指定位置へ進む。

アシスタントは動機付け用具（モチベーションアイテム）を HF に渡す。犬のリードを外し、HF は犬と遊ぶ。

この際、B-W（性格審査員）は犬が HF と遊ぶ際の熱中度を観察し、記録する。

課題 14 – アシスタントとの遊び

課題 13 の続きとして、HF はアシスタントに動機付け用具を投げ渡す。

Verein für Deutsche Schäferhunde Japan (SVJ) e.V.
Tsutsumishitacho 30, 615-0835 Kyoto, Japan　TEL +81 75-313-1789　FAX +81 75-313-1685　svj@wusv.jp

アシスタントは犬を遊びに誘い、遊びへの意欲を引き出す。動機付け用具を適度にブロックすることもできる。アシスタントは犬に咬みつく機会を与え、動機付け用具で短時間の獲物遊びを行った後、犬にその用具を渡す。

この際、B-W は犬がアシスタントと遊ぶ際の熱中度を観察し、記録する。

課題 15 – 探索意欲

リードを付けた犬を所定の場所でアシスタントに預ける。

HF は動機付け用具を持って、あらかじめ用意された固定されたプラスチック製の果物箱のところへ行き、その下に完全に隠れるように置く。その後、HF はアシスタントのもとへ戻り、犬を再び引き取る。犬のリードを外し、犬を解放する。

この際、音声による補助は許可されない。

B-W は犬が動機付け用具を手に入れようとする際の熱中度を観察し、記録する。

課題 16 – 滑らかな床での動作安定性

ハンドラー（HF）はリードを付けた犬とともに、準備されたクラブハウス（ Vereinsheim ）に入る。ここは必ずタイル床やラミネート床などの固く滑らかな床材でなければならない。

B-W（性格審査員）の指示に従い、HF は犬のリードを外し、犬とともに室内を移動する。この間に、金属製の餌皿を床に落として騒音を発生させる。

B-W は、犬の動作安定性、物怖じしない態度、運動機能を観察し、記録する。

課題 17 – 滑らかな床での遊び・獲物本能

HF は B-W の指示に従い、犬を軽く遊びに誘った後、動機付け用具をクラブハウス内の家具などで囲われた隅に投げ入れる。その後、指示で犬を解放する。

犬が用具を見つけたら、HF はそれを犬から受け取り、アシスタントに渡す。

Verein für Deutsche Schäferhunde Japan (SVJ) e.V.
Tsutsumishitacho 30, 615-0835 Kyoto, Japan　TEL +81 75-313-1789　FAX +81 75-313-1685　svj@wusv.jp

アシスタントは、HF がリードを持って犬を保持している間に犬を短時間遊びに誘い、その後、動機付け用具をクラブハウス内の犬が自由にアクセスできない隠された場所に置く。

アシスタントが HF のもとに戻ったら、HF は犬を解放する。

B-W は、犬が動機付け用具で遊ぶ際の熱中度および探索の様子を観察し、記録する。

---

6. 基本的性格

課題 18 – 単独待機時の行動

課題 17 の後、HF はリードを付けた犬とともに指定された場所（訓練場外）へ移動し、約 1.5 メートルのリードで犬を係留した後、その場を離れる。

HF は犬から見えない位置にいなければならず、犬の視界に他の人物も入ってはならない。

犬が少なくとも 5 分間単独で残された後、B-W が中立的な態度で犬の方へ歩き、犬の横を通過して元の位置に戻る。

HF は指示を受けた後に犬を迎えに行き、リードを付ける。

B-W は、単独で待機している犬の行動を観察し、記録する。

この後、B-W は性格審査全体を通して示された犬の行動について、直ちに公開で講評を行う。

もし犬の利益のために B-W が性格審査を中止した場合は、その旨を評価用紙に記載し、SV 本部に提出する。

犬が負傷または病気の場合も、中止の対象となる。

Verein für Deutsche Schäferhunde Japan (SVJ) e.V.
Tsutsumishitacho 30, 615-0835 Kyoto, Japan　TEL +81 75-313-1789　FAX +81 75-313-1685　svj@wusv.jp

審査を中止するかどうかは B-W の判断に委ねられる。

犬は次に可能な日程で再度出場できる。その際、犬がすでに 13 か月を超えている場合でも、3 か月以内であれば特別許可なしに再審査が可能である。それ以降は、繁殖簿局（Zuchtbuchamt）による有料の特別許可が必要となる。

---

7. 評価

B-W による犬の評価は最終的なものであり、異議申し立てはできない。

IV. 評価資料

性格審査を合格した参加者には、評価用紙および希望者には証明書が交付される。

B-W は性格審査を犬の血統証に記載し、合格の場合は血統証の 1 ページ目にスタンプを押す。結果は B-W が 7 日以内に繁殖簿局に報告し、繁殖簿局はその結果を SV-DOxS に掲載する。

Verein für Deutsche Schäferhunde Japan (SVJ) e.V.
Tsutsumishitacho 30, 615-0835 Kyoto, Japan　TEL +81 75-313-1789　FAX +81 75-313-1685　svj@wusv.jp